

行 水 産 会  
三 谷 水 産 会  
立 同 窓 会  
愛 知 縣 立 同 窓 会  
高 校

ごあいさつ



同窓会長  
小田 喜代春

いまだ復調芳しくない経済と明るい材料に乏しい昨今ですが、会員諸兄には地域・職場にてご活躍のこととお喜びいたします。

皆様のご理解とご協力を得て、竹内四男次前会長を中心に大事業の創立五十周年記念事業も盛大に終え、これを契機に意義ある会としての活動を進めて参りました。

昨年の総会以来、会長の大任を押し、同窓会の更なる発展の一助になればと努力しますので宜しくお願い致します。

母校に女子生徒が入学し、制服の刷新と新しい時代を迎

え、校長先生を始め全教職員

が一丸となって、活力ある新しい水産高校の建設邁進されているとお聞きしています。

本会も皆様のご協力をいただき、微力ながら援助いたして行きたいと考えております。

しかし、このような活動も会員のみなさまの積極的な参加が得られてこそ具体化するものです。

年一回の総会の開催と機関誌の発行が、皆様と本会をつなぐ糸として考えて参りましたが、同窓会総会の参加者は、卒業生六千余名にも達するが、毎年数十名という寂しさで、これを何とか打破し、多くの

会員の皆様が気楽に参加できる総会をと考え、より身近な会とするための地区委員の設立をしてみました。今後、各

地域に本部と連絡を密に取られる地区委員のご活躍をいただき、総会が皆様方の会として益々発展が期待されるものと存じます。

また会員相互の親睦を図ることも本会の重要な事業であります。従来、本会の総会は母校の文化祭（水高祭）に合わせて実施してきましたが、今年度は、期日を変更し、十一月二十七日(日)に開催をいたします。当日は懐かしい恩師の先生方もご招待する予定で、是非多くの会員の皆様方がご参加いただけますようお願い申し上げます。

来年は創立五十五周年の節目の年に当り、また六十周年へ向けて更なる発展を願っています。多くの皆様が、母校の先生方ともご懇談するなかで新たな同窓会活動の活性化の知恵も生まれてくることでしょう。

最後に会員諸兄の益々のご活躍を祈念申し上げますと共に、本会へのご指導と今後一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後に会員諸兄の益々のご活躍を祈念申し上げますと共に、本会へのご指導と今後一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

母校の近況について



校長  
石丸 昭和

三谷水産高校の同窓会会員の皆様には益々ご健勝で活躍のこととお喜び申し上げます。また、日頃は本校にご支援をいただき感謝申し上げます。

さて、母校の近況について以下簡単に報告いたします。

一 学科改編について  
平成五年度に水産製造科を水産食品科に、無線通信科を情報通信科に改編しました。

残る漁業科、機関科、水産増殖科の三科については、小型船舶操縦免許、栽培漁業、バ

イテク、潜水等を視野に入れた時代のニーズに合致した学

科に改編したいと考えています。勿論、大型船舶海技士は本校の柱として存続したいと思えます。

二 女子生徒の入学  
平成五年度に二人の女子が入学しました。今年度は水産食品科と水産増殖科にそれぞれ五人ずつ、情報通信科に三人の入学があった。実習、部活動に積極的に参加し活動しています。

三 愛知丸実習について  
従来から行われていた機関科、漁業科の三か月のマグロ漁業実習（ハワイ海域）のほかに、五年度から一年生を対象に沖繩航海（十一日間）を実施しています。サンゴ礁での潜水や沖繩社会見学を取り入れ生徒、保護者から好評を得ています。

四 家庭科を履修  
今年度からの入学生は全員、家庭科を四単位履修しています。家庭科実習室、女子便所、

科に改編したいと考えています。勿論、大型船舶海技士は本校の柱として存続したいと思えます。

今年度からの入学生は全員、家庭科を四単位履修しています。家庭科実習室、女子便所、

科に改編したいと考えています。勿論、大型船舶海技士は本校の柱として存続したいと思えます。

更衣室の新設等施設の充実に務めています。

五 進路状況  
厳しい状況下、順調に推移



前 会長

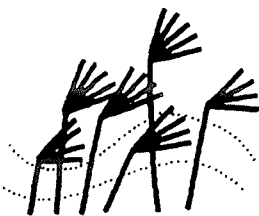
竹内 四男次

している。卒業生150名中就職希望約100名(数名が未内定)。進学希望約50名。

近年希に見る猛暑と水不足に見舞れ大変不自由な日々が続きました。一方政治の世界も「昨日の友は今日の怨」仲よくした友が急に敵となり、あてにならない政治の世界に空、地も怒り天変地異が起きても不思議でない悲しい地球となりましたが同窓生の皆さんには変らぬ心と、地球に愛の心にて毎日をお過ごしのことと存じます。

五年間同窓生の皆さんと各先生方と共に母校の為、同窓会発展に努力致して参りましたお蔭様にて何事もなくその役を終えることを厚く御礼申し上げます。

すでに御存知の如く会報三号にて新会長のごあいさつのように年代も若く、気鋭な会長に変わり別な角度から、新しい感覚にてご努力されることと存じます。同窓生の皆さん方には旧に倍してのご協力をお願いすると共に今後の同窓会の発展と同窓生諸代のお健康をお祈り致します。



水産高校への  
女子入学について

水産高校50年の歴史の中で女子生徒の入学を迎えた2年目の本校の近況をお伝えします。女子生徒の入学年度と人数は次のようです。

平成5年度:

水産増殖科 2名

平成6年度:

水産増殖科 5名

水産食品科 5名

情報通信科 3名

学校に入った目的を聞いてみますと、

「水族館などで水産生物(イルカ・アシカ・シャチ等)飼育係になりたい」

「海や魚が好きでもっと深く学習したい」

「気象庁に入って通信士になりたい」

「水族館でアナウンサーをしたい」

「兄が卒業又は在学している学校だから」

のように色々な動機・目的がありませんが最近、水族館・熱帯魚ブームなどに見られるように、生物(ペットも含む)に接することにより心の潤いを求める人が増えてきているようです。このことが、自然(海)や水産生物を対象とする職業への憧れともなっているようです。このことが、女子の入学となつて現れているような気がします。このことは男・女生徒共に言えることですが、

長年、男子校に勤務してきた者にとって、女子生徒の入学は期待と不安の錯綜するものがありました。

職業高校ですでに女子を受け入れている先進校に問い合

わせを繰り返し、女子トイレ

だの更衣室だのと受け入れに

おおわらわでした。入学当初

(2名)は、はれ物に触るよ

うな、もどかしい感覚もあり

ました。しかし、今年度で女子を迎えて2年目になり、全校で15名の生徒が在学するようになり、ようやくわれわれ教師も女子生徒の指導に慣れてきたようです。

最近、女子を指導してきて思うことは、体力的な面においては配慮が当然必要ですが、

その他においては「授業や実習において男女の区別は一切しない」、「指導上の注意は問髪を入れず、すぐ注意する」

よう心がけています。

最後に、水産高校に女子生徒が入学して来るようになり、色々な問題を抱えることにもなりますが、男子生徒だけでなくかく単調になりがちな高校生活が女子生徒の入学で、いい意味で男女が意識し合い生活面、精神面、できれば学習面で一層の向上が期待できればと思っています。



# 学科改編

平成六年度入学生より、水産製造科を水産食品科に、無線通信科を情報通信科に高等学校指導要領の標準学科へと改編されました。

近年、産業界における急速な技術革新・情報化・国際化等の進展、生徒の多様化・高学歴志向の風潮に加え、生徒の減少期が始まり、水産教育は大きな転換期を迎えているといえます。

学科改編は、こうした状況の中で、魅力ある学校作りを進め、多様化した生徒のニーズに応えるとともに、県内の水産・海洋関係業界からの養成に心えることにあります。

## 【水産製造科の改編】

従来は、水産食品や地域の実態にあった食品の加工品の

生産に従事できる技術者の養成に努めてきました。

近年の技術革新と食生活の多様化に伴い、多種多様な食品が生産されるようになり、また、これらの食品は種々の流通経路を経て消費者の手に渡るようになり、それらの人材の育成も求められているとともに、卒業後の進路も水産製造業にとどまらず、水産流通業への希望者も多くなってきました。

このような時代を迎え、水産物を中心にした食品の貯蔵・加工・流通に関する技術者の養成を目標にした水産食品科に改編されました。

## 【無線通信科の改編】

従来は、海上通信業務に従事できる技術者を養成する一

方、地域の要請に応じられるよう電気通信に関する技術者の養成にも当たってきました。

今日の高度情報化社会に対応し、情報処理技術の進展や電気通信における通信体系の変化に応じられる人材の養成に努めなければなりません。

現在、海上における通信体系は、全世界的な海上における遭難及び安全システムへ移行し、今後地域社会からは、航空通信・衛星通信や陸上移動通信業務に対応できる技術者を要請されると思います。

このような時代を迎え、情報通信科に改編されました。



# 柔道部の紹介

今年度、柔道部は創部以来

初の女子生徒が入部し、マネージャーとして毎日活動している。役割は掃除、時計係等であるが、女子生徒が入部したことでも部員全体にやる気が起き、練習も熱心になり、気合も入るようになった。

その上、部員との仲も良いため、実に和気あいあいとしていい雰囲気のもとで練習することができるようになった。

現在の部員数は、一年生11名(女子マネージャー2名含む)、二年生2名、三年生0名、合計13名である。十月末現在でこの部員数を維持しているのには驚いてしまう。二年前に三学年を通して部員が一人という部の存続の危機に直面したとは到底思えない。しかし、いつまた元の状態に戻る心配である。

また、実力を試す大会には

積極的に参加している。今年度の大会結果は、夏休みに行われた東三河体重別の大会で、60kg級と95kg級の二階級でベスト8に進出した。そして十月に行われた蒲郡市民総合体育大会の柔道競技で団体戦優勝、個人戦でも一位、二位、三位と独占した。この大会そのものは大した事はないが、優勝したということで大きな自信がついたように思える。

過去十数年以上もこの大会で優勝することから遠ざかっていったが、やっと念願がかなった。次の目標は東三河大会で入賞(三位)することである。部員も自分たちの実力を悟り、不可能ではない事を知り、この目標に向け練習に励んでいる。



# サッカー同好会の紹介

平成5年5月頃よりサッカー

の好きな3人が市民グラウンドでボールを蹴りだしたのが始まりである。その後、同じ科の者が集まり数名の者で練習をするようになる。夏休み中も自分達で頑張つて練習をしてきた。それが二学期以降も継続し、その活動状況により、平成6年度に同好会として認められるに到った。本年度は、新一年生も入り四月より市民プールの駐車場を活動の場所とし始めた。現在は本校のグラウンドが空いているのでグラウンドで毎日行っている。練習内容は個人技術の修得が中心である。

同好会の約束は①サッカーが好きであること。②練習する日は自分で決める(都合上、週2回の者もいる)③たとえ一人であっても練習をするこ

との3つです。

現在のところチームとしての練習はできませんが、ミニゲームで個人技術の向上に取り組んでいる。



## 通学区域別生徒数調査

4月7日現在

通学区別 市・郡名	漁業科			食品・製造科			増殖科			機関科			情報・無線通信科			計	専漁		専機		専通		計
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3		1	2	1	2	1	2	
蒲 郡 市	9	15	12	18	12	18	1	3	5	5	8	9	13	15	6	149	2	1	1	2	5	3	14
豊 橋 市	8	11	13	13	18	10	8	6	4	25	17	16	22	17	11	199		3			3	2	8
豊 川 市	1	2	1		1				1				2	1	2	14			1				1
新 城 市																0				1			1
岡崎市・額田郡	1	1	1	1			2	2	3	3	2		1	1		18	1	1					2
安城市・刈谷市	1					1										2					2		2
西加茂郡・豊田市	1						1	1								3							0
碧 南 市				2				1								3							0
西尾市・幡豆郡	5	1	6	2	1	1	1	1	1	1			1			21	1		1				2
大府市・高浜市 知立市									1						2	3							0
常滑市・知多郡	3	2		2			4		1	1	1					14						1	1
名 古 屋 市					2											2							0
海 美 郡	2	3	1	2		2				4	4	3	1	2	9	33			2				2
宝 飯 郡	6	2	4	1	2		1	2		3	4		1	1		27							0
尾 張 郡	3	1	1				2	2	2				1			12							0
県 外								1	1							2					4	3	7
合 計	40	38	38	41	36	32	20	20	18	41	37	31	40	38	31	501	4	6	3	4	13	11	41

### 職員異動

#### 【退職】

原田 幸孝 教諭

無線通信科

吉井謙之輔 講師

機関科

齋藤 博 実習助手

機関科

水藤 浩次 技師

愛知丸

森田 敏夫 技師

愛知丸

#### 【転出】

鈴木 和博 教諭

小坂井高等学校

神野 力 教諭

内海高等学校篠島分校

伊興田万知 教諭

豊橋南高等学校

清水 重夫 事務長

国府高等学校

大塚 政典 主事

蒲郡高等学校

今泉 利昭 講師

豊川高等学校

近田香緒理 講師

豊川工業高等学校

#### 【転入】

田邊 達巳 教諭

内海高等学校日間賀島分校

宮地 毅 教諭

内海高等学校篠島分校

藤城 義光 教諭

岡崎東高等学校

寺田 安孝 教諭

豊橋南高等学校

牧平 秀夫 助教諭

三谷水産高等学校

原田 幸孝 嘱託講師

三谷水産高等学校

加藤 喜三 事務長

碧南工業高等学校

伊藤 敦氏 主事

半田高等学校

### 新任

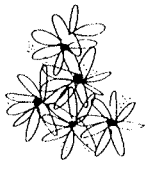
井谷 直樹 教諭

佐々 真一

期限付実習助手

鶴飼 智基 技師

古市 充 技師



### 本校OB職員

#### 【漁業科】

木俣 敬生 昭三一年漁卒

尾崎 智 昭三三年漁卒

三井 重昭 昭三三年漁卒

長坂 好二 昭三七年漁卒

小田 善行 昭三八年漁卒

杉浦 丸乙 昭四一年漁卒

#### 【水産製造科】

壁谷 進 昭四六年製卒

近藤 昇司 昭五六年製卒

#### 【水産増殖科】

浅井 功 昭四四年増卒

今坂 寛 昭四五年増卒

木村 幸二 昭五一年増卒

#### 【機関科】

広中 毅夫 昭三六年機卒

本多 稔 昭三六年機卒

伊藤 秀男 昭四一年機卒

牧平 秀夫 昭五六年機卒

稲吉 浩己 昭五七年機卒

#### 【無線通信科】

原田 正 昭三〇年漁卒

角堀 修平 昭四二年通卒

戸田 和秀 昭四三年通卒

彦坂 榮 昭四六年通卒

尾関 義人 昭四七年通卒

藤井 徳久 昭四九年通卒

湯藤 義文 昭五七年漁卒

#### 【愛知丸】

水野 雄二 昭五三年漁卒

加藤 盛久 昭四五年通卒

杉本 幸弘 昭四九年機卒

鈴木 研二 昭五〇年漁卒

壁谷 信義 昭五一年漁卒

細井 政行 昭五一年機卒

小田 靖 昭五九年漁卒

服部 陽一 昭五九年漁卒

平野 禄之 平〇一年機卒

鶴飼 智基 平〇四年漁卒

古市 充 平〇五年通卒



### 「寄稿のお願い」

皆様のおかげをもちまして、同窓会会報「みおすじ」も第三号を発行することができました。懐かしい皆さんの声を反映できる会報にしたいと努力しています。今後とも引き続き会報を年一回発行していきまうので、皆様のご寄稿をお待ちしています。

### 同窓会役員

〔会長〕

小田喜代春 昭和三十六年  
水産製造科卒

〔副会長〕

竹内 政幸 昭和三十七年  
水産製造科卒

小林 俊雄 昭和三十九年  
漁業科卒

山本 光男 昭和四十一年  
水産増殖科卒

〔會計〕  
林 哲司 昭和四十三年

〔総務〕

藤井 博造 昭和三十四年  
漁業科卒

小田 洗次 昭和四十年  
漁業科卒

鎌田 篤司 昭和四十二年  
漁業科卒

小田 則安 昭和四十二年  
水産増殖科卒

浅井 功 昭和四十四年  
水産増殖科卒

〔会計監査〕

角堀 修平 昭和四十二年  
無線通信科卒

〔事務局〕

尾崎 智 昭和三十三年  
漁業科卒

広中 毅夫 昭和三十六年  
漁業科卒

角堀 修平 昭和四十二年  
無線通信科卒

浅井 功 昭和四十四年  
水産増殖科卒

壁谷 進 昭和四十六年  
水産製造科卒

平野 敏彦 昭和二十七年  
水産製造科卒

山本 昇一 昭和三十三年  
水産増殖科卒

### 卒業生の進路

学 科	卒業生					計
	漁業科	水産製造科	水産増殖科	機関科	無線通信科	
卒業生数(T)	40	35	17	27	33	152
進学者	大学・短大	2	3	3	1	9
	専攻科	4			3	7
	その他	2	3	4	2	6
	小計(A)	6	5	7	8	14
就職者	漁業・水産業			1		1
	建設業				1	1
	製造業	21	23	3	12	14
	卸・小売業	3	1	1	3	2
職 者	運輸・通信業	3	1		1	5
	サービス業	4	1	4		2
	公務員	1			1	2
	その他	2	4	1	2	9
小計(B)	34	30	10	19	19	112

### 新しい制服

女子はスカートと同様の生地のベストにオープンシャツとネクタイとなりました。

長年の間、本校の制服として親しまれてきましたチュウニツク型制服が、平成六年度入学生よりブレザータイプに一新されました。

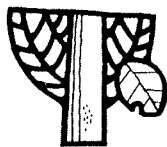
チュウニツク型といえは三谷水産高校とわかるほど、在校生はもとより卒業生・旧職員の皆様はじめ地域の方々にも数々の思い出と伝統のあ

る制服ですが、昨今の他校における制服事情、生徒の多様な化等を勘案の上、数年来検討されてきましたが、本年度より変更されました。

新しい制服は、都市型の水産高校にふさわしく、MFHS (Miya Fisherys High School) のエンブレム付き紺のブレザーに、グリーンチェックのズボンまたはスカート、男子は白のポロシャツ、

平成五年度より女子生徒の入学、学科改編等新たなスタートをした本校にふさわしい制服として今後一層みなさんに親しんでもらえるものと思

得ています。



回想



原田 幸孝

高校と言えば、普通、商業、工業、農業、水産等あるが全国で水産高校は五十一校設置されている。県財政豊かな東京、大阪、神奈川に次いで愛知は四番目にランクされ、そのお蔭で本校の施設設備は全国でも一、二を争う程充実し各科の実験実習でも他県の水産高校と比較してかなりハイレベルの実験をこなしており専漁機の海技試験、専通の無線従事者国家試験等上級資格の合格率は上位にランクされ、上級資格取得後は運輸省航空局、海上保安庁、気象庁、水産庁、警察庁、防衛庁、電気通信管理局、KDD、NTT等に就職し全国各地で大いに活躍している。専攻科、無線通信科の学生は毎年、長崎、

静岡からも来ており三年おき位に遠く北海道札幌の工業高校からも優秀な学生が来て本校本科卒業生と一緒に学び良き刺激を与えている。私は鳥取県の境水高、秋田県の船川水高と回り本校に赴任したのが一九七二年。東北地方では無線従事者国家試験実施地が仙台なので船川水高にいた頃は、生徒を引率して奥羽山脈を横断し試験前日から宿に泊まり、生徒と一緒に朝の二時頃迄勉強に付き合ったこと、修学旅行では添乗員と二人でクラス四十六名の生徒を引率し六泊七日の旅程を無事終えたこと、四泊五日の海洋訓練で教室に蚊帳をつつて寝泊まりしたこと等思い出は尽きない。本校に赴任当時の第一印象は、この三校中校舎は最もきれいに整備されていて、生徒も個性豊かな子が目立った。現在は生徒の個性が失われたというか、角がとれて丸

くなったというか、全体的におとなしくなっている。昨年からは女子生徒にも門戸を開放し十数名の女子生徒が在籍していて以前のような粗野な雰囲気は無くなった。十年前、二十年前の生徒と比較して色々な面で物足りなさを感じているが、現在実施されている入学試験制度が続く限り致し方ないと思っている。本校で進路指導の仕事をしていた期間、成績、素行等で申し分のない生徒は積極的に国公立、私立の大学（国立三重大、宮崎大、長崎大、下関水産大学校、私立近畿大、名城大、日大等）に推薦し十数名の生徒が進学しているが職業高校からでも大学へ推薦してもらえるので、一人でも多く先輩に続くよう勉学に精進して欲しいものだ。今後共、多種多様な生徒が入学すると思うが、学校の教師として最後に残るものは教員が多数各方面で活躍してい

る頼もしい姿だ。これが教師冥利につきると言うものだ。授業は厳しく生徒からあの先生は何となく温かい気持ちを持つているなど思われる様な教師を目指して頑張つて欲しい。最後になりましたが、同窓生、教職員のご健勝を祈念して筆を擱きます。

再度の勤務で



吉井 謙之輔

得ません。在校生の状況がとても変わったように思います。以前は、一流校でも入れる生徒がごろいりましたが、今は残念ながら…。また、上級生、下級生の区別がなくなっているように感じます。それと、ものごとに耐えることのできる生徒が少なくなりました。時代の流れなんでしょうか。校舎や設備は立派になりました。お金もかかっています。自分の母校がよくなることは、卒業生としてうれしいことです。外観も内容も立派にしたいと教職員みんなが努力されています。私も及ばずながらと努力しますが、力不足を感じております。ただ、卒業されたみなさんが、社会で立派になられているのを見たり聞いたりするとうれしくてなりません。ますますのご発展をお祈りする次第です。

十年ひと昔といいますが、三十年もたつといろんなものが、ずい分変わるものです。私は三十年前に、ここ三谷水産高校に勤めさせていただきました。退職して、自営したり、会社で働いたりして、再び四年前から教壇に立たせていただいております。「感想は？」ときかれて、「やっぱり、ずい分と変わりましたねえ。」といわざるを

三谷水同窓会に寄せて



神谷 準 一

同窓会の皆さんには大変ご無沙汰しております。夫々の職域で御活躍のことと推察し

ます。永い教師生活から解放され、未知の世界に放り出されたような気分でしたが、今はすっかり俗塵にまみれて、自由奔放な暮しに慣れてしまいました。今更昔の思い出といっても、古傷に触れる感じがしないでもありません。素直に言っ

り、怒ったり、反発されたり等々の繰り返しでありましたが、今にして思うと、生徒諸君にどれだけプラスを与えられたか、先生と言われるだけのことをしてきたか、反省と後悔の念去りやらず、汗顔の思い頻りです。

時代と共に生徒の気質も違つて参りますので、学校の先生も大変であろうと思われませんが、一概に言つて、「昔の生徒はよかつたなあ」と言うのが私の素直な感想です。私も古い人間でありますので最近の若者にはついてゆけません。従つて一層そんな感じがするのかも知れません。

定年退職して十年になろうとしていますが、以来、地域自治会長をやっています。色々な行事に参画したり、様々な人と出会つたり、趣味の会にも参加したりで、第二の人生も万更捨てたものでもないと思つています。過去も薄れ未

来はない昨今、せめて現在だけは楽しく、何事も面白がつ

てやろうと思つています。

《 総会のご案内 》

◆と き 11月27日(日曜日)

12時~14時

◆ところ ホテル竹 島

(会費は5,000円です)

本年度にご勇退の先生方と、昔懐かしい恩師の先生方も多数出席されますので、皆さんのご出席をお待ち申し上げます。

ご出席の場合は、お手数ですが、同封の葉書をお送り下さい。

(同窓会事務局)

会費納入のお礼とお願い

毎年の会費の納入ありがとうございます。ご協力いただきます。

本年も約八百名の方にご協力いただき、感謝いたします。内訳は、同窓会基金に約五十万円、同窓会基金に約五十万円、運営費に約三十万円を使用させていただきました。今後とも、皆様方のご協力をお願いいたします。

編集後記

「みおすじ」も皆様のおかげで三号になりました。毎回ご寄稿下さいました恩師の先生方に厚くお礼申し上げます。この会報が今後とも皆様の手元にお届けできるように事務局一同努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。なお、来年度は五年目になり、新入会員も多数入会しましたので、同窓会名簿の発行を予定しています。